

2021,3月号

ハノイ日本人学校 学校便り

令和3年3月1日

こころの道

Nhân hậu Thông minh Khỏe mạnh

やさしく

ニャンハオ

かしこく

トゥオンミン

たくましく

ホエエマイン



火星

明石 清二

アメリカ国の無人探査機「パーサヴィアランス」が火星に到着し、生物が存在した痕跡を調査し始めたことが報じられました。探査機の名前は、日本語で「忍耐力、不屈の精神」とか。

火星については、以前、無人探査機が送り込まれた時に映像を送信してきたことがあり、当時のニュースでも大きく報じられた記憶が残っています。最初に報じられた画像は青色の背景であり、空気が存在するのではないかという疑問も提示されましたが、その後の画像はよく知られている赤茶けた岩石だらけの大地であり、どこまでが真実なのか、何が真実なのか分からないのは確かです。

さらには、過去において「水」が流れており、今回、「パーサヴィアランス」が着陸した地点も「湖」の跡地であると聞きました。水があったという事実は、生命の痕跡発見に大きく迫ることのできる根源です。どんな生命が息していたのか、生命といっても極微小な原始的な生き物なのか、SF 映画に登場するような宇宙人なのか、いずれにしても痕跡の発見に大きく期待するところです。科学者たちは岩石の隙間に着目しているようです。

日本国内では、時々夜空を見上げては、「あれが火星、あれが金星・・・」と勝手に思いを馳せることがありました。星を読むことはできませんが、流星群の時期には庭に寝っ転がって流れゆく星を眺めることがありました。

宇宙の誕生は138億年前のビッグバンとか、地球と同じような条件をもつ星の数はあまた存在するとか、宇宙そのものは広がっているとか、ブラックホールは光も飲み込むとか、「無」とは一体何なのかとか……考えるだけで、そこには大きな驚きと夢があります。人知を超えるとは、正にこのことと思いつつ、宇宙学、天文学が日々進化し続けるのを遠くから眺めています。宇宙のことを調べるのが好きで、星を眺めるのが好きな子は、是非この道に進み、多くの謎を解決してほしいと願います。そうすることが人類の新たな発展に寄与すると確信しています。

反面、月の裏側に到着しようとしている国もあると報じられています。何やら軍事目的も見え隠れしているような報じられ方でした。既に宇宙空間での迎撃ミサイルが開発されている現在ですが、月をはじめとする宇宙全体を軍事開発するなどあってはならないことです。人類がこれから開発しようとしている宇宙や深海は、人類全体、生物全体のものであって、どこの国のものでもないといえぬと捉えないと利害関係ばかりが先走り、結局は経済開発に終始せざるを得ないこととなります。

子供たちには、大局を見つめ自分が今幸せならば、世界中の人々の幸せをも考えることのできる大人に育ててほしいと願います。中学部の子供たちと話していて、多くの子が人のために生きようとする高い志をもっていることに、本校ならではの心意気を感じました。



月にはウサギが住めばそれでいい。武器を備えたウサギ小屋は必要ないな!